



切磋琢磨

【発行日】平成29年12月13日
【発行者】角田高等学校
校長:鈴木 琢也
【連絡先】0224-63-3001

保護者の皆さん、ぜひ学校に足を運んでください！

先日、NHK総合テレビで再放送された「チョコちゃんに叱られる」という番組を偶然観ました。チョコちゃんという番組キャラクターが出演者に様々な質問をするのですが、その中に「これから親と過ごせる時間はあと何時間残されていますか？」という質問がありました。

大人になって、同居していない親と会う機会は、1年間で盆と正月の平均6日間しかありません。しかも1日中親と顔を会わせているわけではなく、平均すると1日4時間程度しか顔を会わせないと言うのです。1日4時間×6日間＝24時間、つまり1年間で親と顔を合わせる時間は、せいぜい1日程度しかないという計算になります。ということは、これから親と過ごせる日数は、親が亡くなるまで残された年数と同じになるということでした。

また、番組では「子どもと過ごせる残り時間」についても触れていました。一生のうちに子どもと過ごす時間の7割は幼少期にすでに終わってしまうというのです。幼稚園や保育所の頃までは何をするのも親と一緒にだったのが、小学校、中学校、高校と成長するにつれ、親から離れて友達と過ごす時間が増えていきます。成人してしまうと、それこそ盆と正月くらいしか会わないということになってしまいます。子どもと過ごす残された時間も限られているのです。

さて、先日実施した学校評価の保護者自由記述に、「学校へ足を運ぶ機会が少なく答えにくい」とか、「授業を参観していないので分からない」という意見がありました。これまで以上に学校から情報を発信して、学校の様子をお知らせしなければならないと感じましたが、一方で保護者の皆様にももっと学校に足を運んでいただきたいとも思いました。学校の様子を最もよく分かっているのが授業だと思います。しかし、授業公開週間に来校された保護者の方は数えるくらいしかいませんでした。お忙しいとは思いますが、授業公開や行事の際には積極的に学校に足を運んでいただいて、学校の様子を見ていただきたいと思います。

お子さんと過ごす限られた時間を有意義に過ごすためにも、よろしくお願いします。

明日の宇宙を拓くまち！かくだ ～JAXAを見学してきました～

角田市には「国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構（JAXA）角田宇宙センター」があります。宇宙の最先端技術であるロケットエンジンを開発する研究所が近くにありながら、これまであまり連携してきませんでした。

11月半ばに角田宇宙センターの方が来校され、角田高校の生徒に地域・科学に目を向け、社会体験の場を提供するために、JAXA主催の「角田エアロスペーススクール」に角田高校優先枠を設けていただけるとのことでした。

我々職員もJAXAのことは詳しく知りませんでしたので、早速角田宇宙センターにお願いして、12月6日（水）職員数名で見学に行ってきました。

広い構内をマイクロバスで移動して、一般公開している「宇宙開展示室」や普段は公開していない「高温衝撃風洞」や「ラムジェットエンジン試験設備」を見学させていただきました。1時間30分の限られた時間内では十分に回りきることはできませんでしたが、大変有意義な機会を持つことができました。今後、より密接に連携できるよう検討してまいります。

「角田エアロスペーススクール」は毎年夏に2泊3日で開催され、全国から10数名の高校生が参加しています。今後詳細が決まり次第お知らせいたしますので、興味のある生徒に参加してほしいと願います。



白石高校PTAの皆様と夜の角白定期戦を行いました！

平成29年12月1日（金）仙南シンケンファクトリーを会場に、白石高校の保護者・教職員の皆様と、本校の保護者・教職員とで懇親会を開催しました。角白定期戦を共に戦う両校の保護者同士で懇親を深めることが目的です。佐藤昌志総務部長の話によると、平成14年度から数年間開催していたようですが、その後開催していませんでした。

当日は約20名が集まり、両校のエールを交換するなど和やかな雰囲気となりました。次年度は、敵地白石での開催を約束して御開きとなりました。

参加していただいた保護者の皆様ありがとうございました。



●特別寄稿 その4 「あの頃」 教諭 佐藤昌志

平成23年3月末の午後、私は角田高校での転任の引き継ぎを行っていました。プレハブ校舎、トイレの前には水を流すためのバケツ。その日の午前中、亘理町のお寺で3月に卒業式で送ったばかりの3年間クラス担任をした生徒の土葬に参列。お母さんの『今でも「ただいまー」と元気よく帰ってくるんじゃないかと・・・』との言葉が深く胸に刺さりました。中島の体育館に早くから安置されていたにもかかわらず、地震後10日間ほど行方不明だったのは、両親でも見分けが付かない状態で、彼女によってなんとか確認できたからでした。内陸部に位置しているその高校唯一の犠牲者でした。

そんな縁で本校に通勤し始めると、白石から峠を越え角田に入るあたりで毎朝のように彼が話しかけてきました。とりとめのない会話をしながら学校に到着したものです。学校はというと4月8日に前夜の強い余震にもめげずに実施した新入生の合格者説明会。延び延びになっていたプレハブ校舎から新校舎への引越。新年度へ向けた慌ただしい準備の日々。その頃市内で食べたソフトクリームや「いも殿下」のおいしさは一生忘れられません。

4月21日始業式、入学式。一片の汚れも無い新校舎に喜々として登校してくる生徒のまぶしいこと。念願の校舎を大事に、キレイに使おうとする生徒のけなげさ。部活動では遅れた日々を必死に取り戻そうと張り切る姿。仙南総体では緊急地震速報が鳴るたびにプレーを中断し、テニスコートに伏せたっけ。定期戦中止でも3年生の想いをくんで誰も観客のいない中で行った男子テニス部員だけの非公式の定期戦、残念無念2勝3敗。オーバーワークの練習で身体を痛めながら臨んだ県総体。生徒は皆学校に来て過ごすことに喜びを感じながら本当に充実した気持ちの日々でした。そんな頃彼のお父さんが突然学校を訪れ、「ようやく火葬し、無事弔うことができました。」と。そういえば最近彼が通勤途中で現れなくなったのは、そういうことだったんだと合点がきました。合掌。

いろんな不自由にもかかわらず球技大会は学校で種目を工夫しながらの充実した2日間、この7年間で一番楽しかったなあ。11月11日には多くの来賓を招いての新校舎落成記念式典。講演の中で校歌を作曲した方がジャズミュージシャンだったと知ったときの驚きとなんとなくの心地よさ。他にも多くのことがありました。内陸部ゆえ被災地と言えず、しかし今振り返ってもやっぱり我々も物心両面まちがいなく被災者だった。私自身壊れたスピーカーを処分し、新しいスピーカーを購入して趣味のオーディオを再開する気持ちに至るのに8ヶ月かかりました。自分の人生の中でも激動だったこの1年間を、角田高校で過ごせたこと、よかったと感じています。